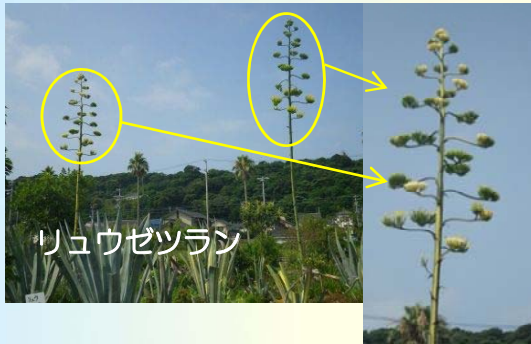


# エコパーク通信

平成28年8月号



リュウゼツラン



フヨウ



アブラゼミ

厳しい暑さにだいぶ慣れてきましたが、暑さはまだまだ続きそうですね。

エコパークでは、木陰にテーブル、イスが設置されています。セミの声、鳥のさえずりを聞きながら、自然の風の心地よさを体感してみたいはいかがでしょうか。



デュランタ



サルスベリ



ジンジャ

エコクラブの会合が、七月三日（日）花小屋にて開催されました。御前崎市市議会議員から、エコクラブ誕生二十周年に向けて、又市政についてのお話を聞き、意見交換をしました。

## 私とエコパーク 大澤 博克

「エコパークは、いつまで海だったんだろう、又いつ埋め立てが終了し、今の公園の形になったんだろう」と考えますが思い出せません。本当に記憶は日々薄れていくものだと思います。私の記憶では、以前の公園は鬱蒼とした木々の生い茂る雑木林の思い出しかありません。ただ20年位前からすっきりとした公園に変わったなあ、一体誰が管理しているのかなあ、草取り作業は大変だろうなあという感じしか持っていなかったと思います。

ある時友人に誘われた事がきっかけで、エコクラブに入会しました。その時初めて山本会長を中心とした会員の人達の努力によって、エコパークが維持、管理されていると言う事を理解できました。ところが、私の場合30年近い歳月を家と港の往復で、しかも海の上で時間を費やしてきた人間にとっては、花や樹木を愛でて作り出す癒しの空間に対する場の感覚のズレの修正には、少し時間がかかりました。

大昔においては、海浜で塩造りをして、他地域との商業交流がありました。現在ではエコパークの花、またはイベントによる文化交流へと変化しましたが、大変有意義な事と感じております。今年も桜の季節にパークを訪れ、咲き誇る花の気持ちを感じ取って参りました。花や草木が成長する季節である一方で、雑草の盛りにもなります。そのため管理、清掃にも又一層がんばる時期でもあります。会員の皆様、体が動ける間はがんばりましょう。御前崎で一番大きいお庭である「エコパークに永遠あれ」とエールを送ります。

御前崎エコクラブ会長  
山本貴美枝

